



苗床化産卵地獄

～繁殖苗床にされた見習い系術師～

基本CG 8枚

本編CG 65枚

「あぁっ！もうっ！いくら人手不足だからって
こんな時間に学院生まで動員するなんて！」

全国各地で妖魔が急増し退魔師や呪術師が不足していた
まだ退魔師などの家系が多く通う学園生で、また自衛隊の紗奈は
文句を言いながら得意の糸術を使い迫りくる妖魔の触手を切り裂いていく





「まったく…明日だって普通に授業があるんだから…
はあ…この後、報告をしなきゃいけないって通んならうぜやうなあ…」
パラパラに切り裂かれ崩れていく妖魔を冷めた目で見ながら
操った鋼糸を回収していく



鋼糸の制御に手間取っていると倒したはずの妖魔が再生していき
再び紗奈に襲い掛かってきた

「さよーさよーとさっさと」
「今はだめだっ！」

襲い掛かる妖魔に気を取られ鋼糸の制御が途切れてしまう

紗奈の制御が離れた隙をうと鋼が紗奈の身を
巻き付けていく
「あーっ、っまってっ！」





「へいっ…ほなやっ…」

妙な御伽話を尋ねられるも抵抗したが
服はホロボロになり口元りたなれてしまっ

「っ…っ…んと言葉も通じない下級妖魔だ…」

キィ

キィ



「お…おひさまー」

「この…向うが…ア…ア…ア…ア…ア…ア…」

紗奈は身を振り拘束から抜けようと必死に抵抗する

く…く…く…

く…く…

く…く…く…



スッと紗奈の首元に銅線が張られ鋭い痛みが走る

「あ………嫌………き………」

気の込め方で切れ味が変わることを見失っていた紗奈は今
自分がバラバラにされてしまうかもしれない状況を感じ出す

あ

あ



「あ……あ……」

あまの淫靡ななまこぶしに……

「おなが……」……死んだんなら……
なんでもするから……」

あ……あ……

あ……あ……

あ……あ……



「きゃあああっ!!」

妖魔は言葉を理解したのか紗奈の胸を広げる
紗奈の下着は尿で染みつき秘所が透けていた

「あ…っ…嫌…見なすてえ…」

ザッ

じわ

え〜



「ひあぁっ!!」

触手は紗奈のパンツに滑り込み引張る
パンツをすらすられ恥すかしい場所が空気にさらされる

「ちよっとは嫌っー待ってー」

嫌な予感が当たったと紗奈は焦り何とか抵抗しようとする

んっ!!?

ぐっ
いっ

粘液まみれの妖魔の生殖器が近づいてくる

「う……」
（な……なにあれ……気持ち悪……う……あれって
お……男の人のアレだよな……?）」

退魔を生業にする家系に生まれた紗奈は清い身体を保つため
異性交遊には厳しく躰されてきたため知識はあるものの子供の頃に見た親以外のモノを
見たことがなかった

「あ……あんなモノが私に……?」
（む……無理！あんなおぞましいモノで犯されるなんて……!）」

早くも紗奈の心は折れかける

フ!?

ヌル、

ヌル、





「はあ...はあ...あ...んん...」
(だ...だめ...頭がぼーっとしてきた...こんなにころで気を失うわけには...)

無理矢理挿入されてから「転ゆっくりと膣内を愛撫され紗奈は快感に身を
ゆだねつつあった

んあ...♡

おっ...♡
は...♡

グッ
グッ

グッ
グッ

ヌッ
ヌッ



「イッ—!!」

触手が紗奈の子宮口を貫く
経験したことのない快感に身体が勝手に痙攣する

「ひっ……っ……あり、ああある……」
(な……何、おれが……さなか……びっ……っ……な……な……っ……)

媚薬粘液により痛覚が浸食され子宮口をこじり開けるような刺激ですら絶頂する

キッ

イッ

!?

ブッ
ッ
ッ

びっ

びっ



「はっ…ほっ…ああ…」
(「いっくんのを、助けが来るまで…」)

腰全体で暴れる快感に意識を明滅させ紗奈の中に絶望感が広がっていく



紗奈の子宮にまで侵入した触手が膨張する
「……なに……急に大きくなった……」



触手から紗奈の子宮内へ大量の妖魔の卵が送り込まれていく
卵が膣内を通り子宮口に到達するが紗奈には触手が膨らんだように感じな



「んおっ!ほおおおおおおおおおおおおおおおおおおっ♡」

子宮口が無理矢理広げられ紗奈の下腹部に強烈な快感がはじける

「おっ、あおっ!おふおおおおおっ♡」

おっ
あ
お

たった一つ妖魔の卵を産み付けられただけで
紗奈の獣のような嬌声が夜の公園に響き渡る

ビクッ

ビクッ

グッ
ポッ

ビク
ビク

グッ
ポッ



「んおっ、おっ、びっ♡こっこれと子宮だ、何か入れられてっ」

触手の動きはまだ止まるなら

「びっ、ま、まはかまたやるのっ」
「ごや...っ、ごやあ！これ以上んんことと気持ちよくなりたくならっ!!」

はっ
ム

必死の懇願もむなしく触手は容赦なく次々と卵を送り込んでゆく

ゴッ
ゴッ
ゴッ
ゴッ



「あっ、はぁっ、はぁ——っ、はぁ——っ」
「どっ、どまった……あ……あ……」

激しい絶頂の嵐が落ち着き自分の身体が目映る

ハ……ハ……

「……これ……私のお腹……」

大量の卵を産み付けられ妊婦のように膨れ上がった腹を見て
紗奈は呆然とする

ホッオ……

紗奈の顔元に怪しい液体を滴らせた触手が近づいてくる

「あぁ...あぁ...」今度は何...
「うい...近づいて見ると...お許し...きん...お触ら...」




ヌル...

ヌラ...

ハ...!

ハ...!



気を失った紗奈はいつの間にか解放され妖魔と戦った公園内に打ち捨てられていた



「はぁっ、はぁっ、は、は、は……」
「もしお腹の中が生まれさす……」

拘束から解放され目を覚ましてきた彼女は産み付けられた卵が胎内で孵化することを恐れ、何とも卵を破り産んでしまった

ドゥ……

！？！

！？……

体内の気を操り念動のように卵を動かして子宮内から無理矢理排出を試みる

「ふーッ、くぅ…ッ、も、もうびよっとなのびッ」

「うう——ッ、だ、だめ…ッ、私の身体ッ、おちかしくなってるッ」

紗奈の胎内で卵が動いたび気が狂いそうなほどの快感が身体全体に迸る

「うう…力が入れられない…」



紗奈は覚悟を決め全力でいざむ

「ふっ、うらららら——ッ」

(ああッ、イクッ、イクッ、こんを所で、はしたない恰好でッ
イキたくないのにッ！)

おっや〜腰回かめ目ら罪深淵を臨す





「うあッ、あああああああああああああああああッ♡
「ほおおおッ♡イタッ、イタのッ止まらないういっ♡」

卵が生み出される瞬間、強烈な絶頂感が何度も押し寄せ、身体が勝手にのびたり
誰もいない公園内に紗奈の嬌声がかかる

ブボッ

おっ

びん

びん

あッ





「はぁッ、はぁッ、や、やっど」個……「個……」
「いっ、いっ、んをのをあと何回やればいいの……一個でも何回もイッちゃうのだ……」
やっこの思いで卵を産み出すもまだまだ妙奈の腹は大きく膨らんだまま
妙奈の中に絶頂感が広がって……

アッ

アッ

アッ

アッ



「ふっ、ぐわわわわッッッ」
（でも、死んじやうかもしれないのに比べたら…っ）

しかし絶望しながらも諦めず腹に力を入れる



「んあッ♡おおおおッ♡イッイッイッ——ッ♡」

再び強烈な絶頂を迎え座の収縮で卵が勢よく押し出される



「はぁッ、はぁ——ッ、はぁ——ッ」
(や、やっど「個画」…ち、ちよっど休憩しなごう…)

度重なる絶頂の余韻に浸りながら全身の力が抜けていく

ハァ——！

フッ——！

フッ……

しかし念誦に凝りついでる時間は許されていなかった
紗奈の耳にビシッ、ビシッ、ビシッの嫌な音が聞かされていく

「……」

地面に転がった卵は孵化を始める



あ
え
？

びゅん

びゅん



ついに卵が孵化し新たな触手がおぞましく蠢く
紗奈の胎内で十分な気を吸収した卵は外気にふれ即座に孵化を始める

「ひっ、ひっ、あああああっ！」

「あ、あんなものが私の中に居るはやくとっつかしなさいと！」

孵化の様子を目にし、あまりのおぞまじさに焦りが募る

ひっ!!?

ニョルッ

ヌルッ

ニョル

生まれた触手は急激に成長し...



生まれた新たな下級妖怪たちは再び鋼糸を操り秘法の身体を縛り上げる



「うっ、へっ、うっ...鋼糸が食い込んで動けない...」
「もう、もう...許してよ...何で私がこんな目に...」
媚薬が全身に回り切った身体は抵抗も出来ず動かされるままに
脚を大きく広げられる

ドッ...

止まればかりの妖魔の触手が紗奈のアナルを触りだす



あー！

いやー！

あー...

「ひっ！今度はお尻っ！」
「嫌っ、もうこれ以上委ねなごしないでっ!!!」

そんな叫びを無視して触手はアナルに狙いをつける

ヌル...
ヌル...

触手が紗奈のアナルをこじ開けズブズブ侵入する

おッ!!?

プシュー...

!!?

びびッ

びびッ

プシューッ

ズッ

頭がぼじけ飛ぶような強烈な快感がアナルから全身に広がって張り詰めた乳房からも母乳が噴き出す

「ほおっけんおおおおッ!!」
「だめっだめえっ、お尻っこわれちゃうううううう」





「ああ…はぁ…はぁ…や、やっど…おさまった…」
「なんで、母乳まで出て…もうわけわからんわいよぉ…」

少し前に胃の中に流し込まれた媚薬が作用した結果、無制限に母乳が作り出されていた

「くぅぅ…動きは止まったのにまだソクソクが止まらない…」
「十分遊んだでしょ…早く抜いてよぉ…」

ピクッ
ピクッ

トッ

んっ



運動するようにアナルに侵入した触手も震るだす

「ツツまつ、まつて!!?い、今はつ、無理っ、耐えられないからあ!!」
「アアツ!!ダメダメダメダメ」

アッ
アッ
アッ

アッ

チュルルン

グッ

グッ
グッ

腸内の深くまで入り込んだ淫手は器用に動き子宮を圧迫し
中に残った卵を押し出す

ほっ
あっ♡

おっ
おっ
おっ♡

「おほっ♡んおおおおお♡イグッ、イグの止まらないいい♡
何度も脳内でスパークを起こし意識は快感に支配されていく

ブリッ

グッ





「おおおお
おおおお
おおおお
おおおお
おおおお
おおおお
ツ♥アオツ♥」

あ
お

お
ほ
お
お

べ
ぐ

ぐ
ッ

ぐ
ッ

べ
ぐ

べ
ぐ

ッ♥

限界を超えたイキ地獄により妙な心が徐々に開花して、
絶頂感が弱まってくると同時に身体を切なさと快感がわき上がってくる

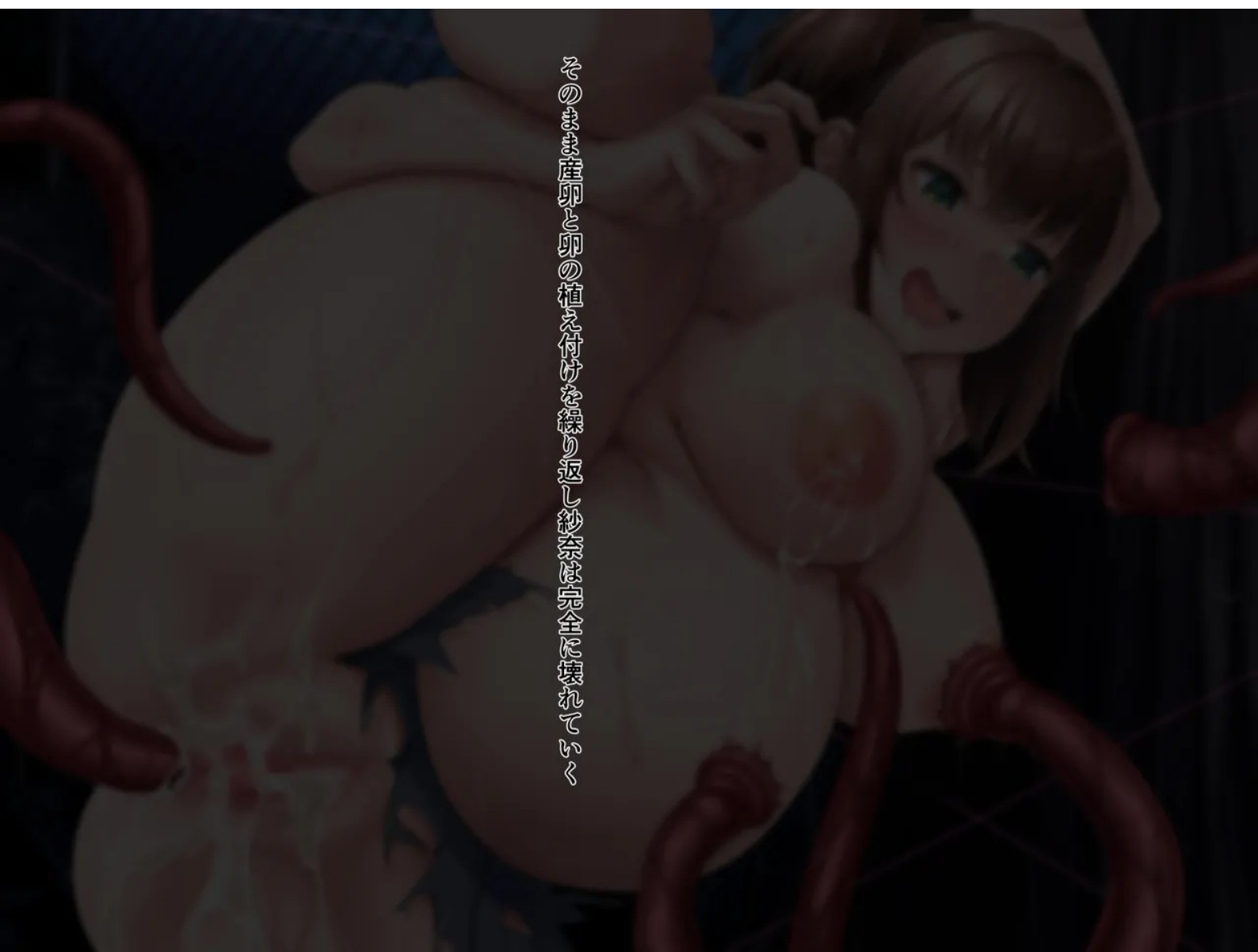


「あ、ああ、なんで…もうイキたくないのに…もっと欲しいって
身体が勝手に…」
「壊れちゃった…私の中で何かが…ア…アア…モット、イッパイ、キモチヨクナリタイ…」

ア…

ア…

その時、産卵と卵の植え付けを繰り返して紗奈は完全に壊れていく



「あ……あ……んん……い」

深夜の公園に紗奈の小さなうめき声が上がりが続ける
強烈な快感に浸り続けた紗奈の自我はすでに壊れていた





「んおおっ♡イクッ…♡またイクッ、イグウウウッ♡」

媚毒が全身に行きわたり最適化された身体は触手の補助がなくとも勝手に子宮が開き絶頂による膣痙攣で卵が押し出されていく



「ほぉおほぉおほぉおッ♡ほぉおほぉおッ♡あぁおほぉおん♡」

恥じらいもなく獣のような声をあげ絶頂感た身をゆだねていた
全身の筋肉の収縮で母乳が噴き出し膣内からは卵が勢いよく押し出される

おい

おいおい

ふい

あ

ひく

ひく

ん

ブシヤッ

ブシヤッ

ブシヤッ



「あひまっ♡んん♡…またふえたあ…♡」

もう妙奈の中では近づくらへる触手をめは快楽をたまめてくられる存在でしかなくなっていた
朦朧とした意識の中、嬉しそうな顔で触手たちを迎え入れる

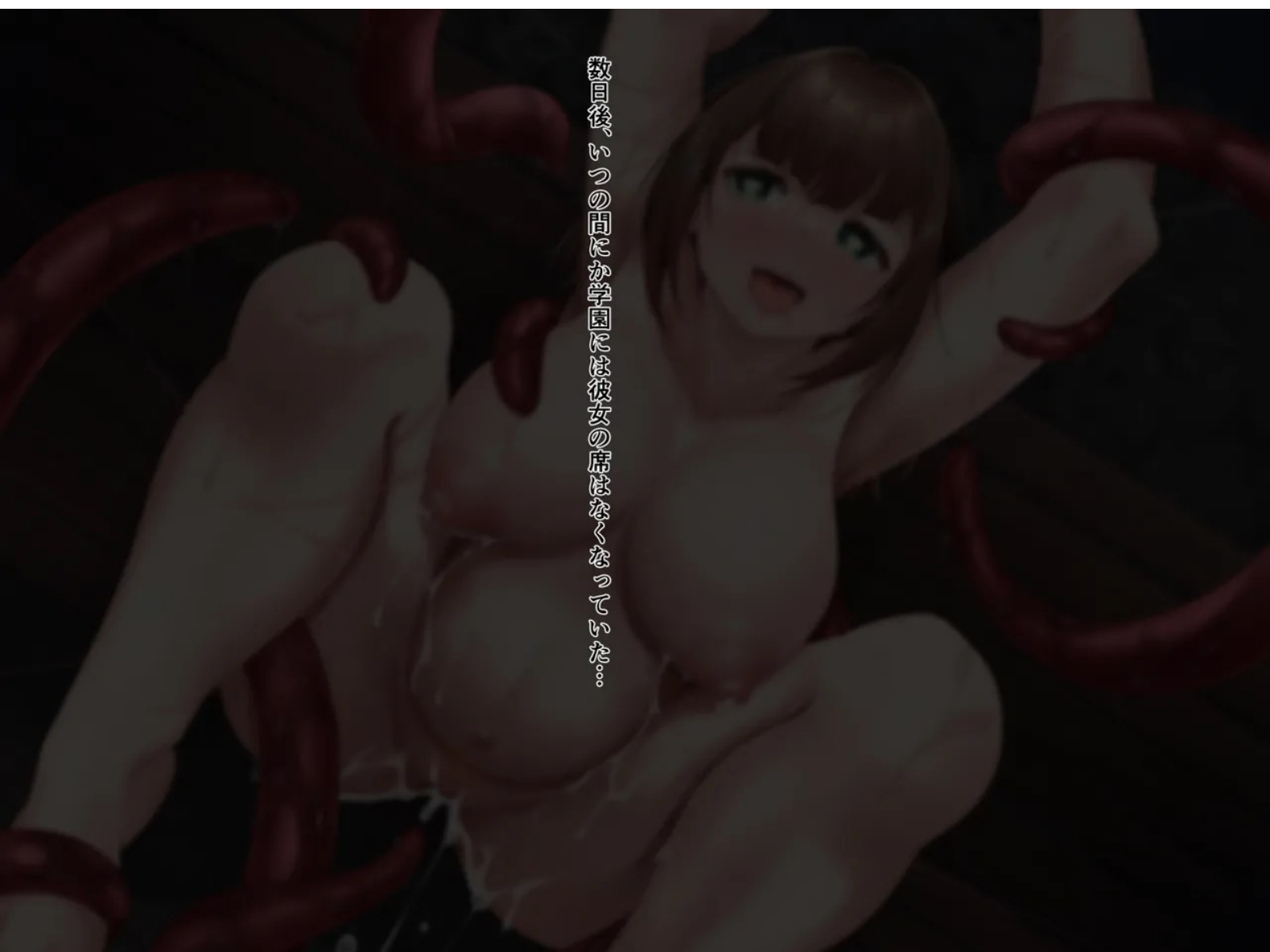
ヌルン

ヌルン

アッ♡

えっ♡

アッ♡



数日後、いつの間にか学園には彼女の席はなくなっていた…。